スマート農林水産業ワーキンググループ（第3回）

日 時：令和3年3月23日(火) 13:00～15:03

場 所：合同庁舎第8号館特別中会議室

出席者：

大泉 一貫	宮城大学名誉教授(オンライン) 規制改革推進会議農林水産ワーキング・グループ専門委員
金丸 恭文	成長戦略会議有識者 フューチャー株式会社代表取締役会長兼社長グループCEO
佐久間総一郎	日本製鉄株式会社顧問 規制改革推進会議委員及び同農林水産ワーキング・グループ座長
三村 明夫	成長戦略会議有識者 日本商工会議所会頭

(関係事業者)

増永 勇治	グローバルオーシャンワークス代表取締役
諏訪田敏郎	鹿児島銀行監査役
小祝誉士夫	GOW未来創造ラボ代表
村山 結美	東杜シーテックテクニカルセクション.3チーフ
本田 光正	東杜シーテック代表取締役
横山桂一郎	東杜シーテックFISH&ROBO BASE エンジニアリングマネージャ
鹿野 満	東北大学大学院工学研究科IIS研究センター特任教授
小野寺政行	シー・テック代表取締役社長
佐藤 精基	NECソリューションイノベータ <small>東北支社第三グループプロフェッショナル</small>
菅原 道晴	レイティストシステム代表取締役
笠原 秀一	オーシャンアイズ取締役

(農林水産省)

山口 英彰	水産庁長官
小坂善太郎	林野庁森林整備部長
菱沼 義久	農林水産技術会議事務局長（兼大臣官房技術総括審議官）
安部 伸治	農村振興局整備部長

(総務省)

鈴木 信也	総合通信基盤局電波部長
-------	-------------

(内閣官房)

野原 諭	成長戦略会議事務局次長
------	-------------

議 題：

- ① スマート水産業の課題・展開方向（令和3年2月9日（火）第1回ワーキンググループでの指摘も踏まえて）
- ② スマート農林水産業の通信環境整備の課題と展開方向

議題について、グローバルオーシャンワークス、東杜シーテック、オーシャンアイズ、農林水産省、総務省から、資料1～8に沿って、それぞれ説明。意見の概要は、以下のとおり。

【議題①関係】

- 水産業を取り巻く環境が激変している中、それぞれ創意工夫を着実に進めているお話を聞いて、勇気をいただいた。
- 規制改革推進会議で3年前にヒアリングしてから、その後、現場の様子は、どう変化してきたか。
（関係事業者から、3年前と比べ、周りが大きく変わった。自分たち自身がやっていることは、養殖の近代化に向け変わっていない。今は、漁業権に大きなこだわりはない。それがなくても、協力体制により、かなりやりやすくなった。原価を下げていくため、他産業のいろいろなテクノロジーを導入していく旨回答。）
- 鹿児島銀行は、地方銀行の中でも、一次産業への支援に積極的であるが、どういう戦略をもっているのか。人材も参画させているのか。
（関係事業者から、2005年から、一次産業への支援にターゲットをあて、アグリクラスター構想をもち、専門部署も設置した。資金を出すだけでなく、中間管理を継続的にやり、寄り添って進めていくことが重要。今日の養殖関連会社からも、2009年の創業のときから相談があり、日本政策金融公庫と連携して、設備投資への融資をした。現在は、出資もしている。地銀の在り方として、一次産業への支援に力を入れていく旨回答。）
- 今回の東北のプロジェクトは、大学、現場の関係者、中小企業、大企業、行政が含まれる理想的なプロジェクト。縦割りを排して、ヨコの連携を大事にされている。今回のプロジェクトは、誰がリード・発想したのか。
（関係事業者から、仙台市が、企業育成のためのマッチングをされ、また、東北大学が中心となり、地元中小企業や大手、東北だけでなく、日本中から、得意

分野を持ち寄せて集まり、相乗効果が現れた。産学官までは集まったが、金、つまり、金融機関が入っていない旨回答。)

- 九州の一次産業への支援を戦略としてもつ鹿児島銀行のように、金融機関が、この東北のプロジェクトにも入れば、より強固のものになるのではないか。
- 海洋情報提供サービスの提供によるデータ利用により、経験値に頼る従来型と比較して、どのような定量的な効果が出てきているのか。
(関係事業者から、漁船が満槽になり帰ってくるのが早くなっている。燃油代も10～20%減少しているのではないかと回答。)
- 東北のプロジェクトで、苦勞していることは何か。
(関係事業者から、判別するために、魚を整列させるのが技術的に難しかった。また、水揚げ量は、一定ではなく、魚を確保するのも難しい。川下の企業との連携も今後の課題である旨回答。)
- 海洋情報提供サービスの料金も5万円／1海域とあるが、これは、国立研究開発法人からの支援があり、この料金設定が可能になっているのか。海外展開はどう考えているのか。
(関係事業者から、大きな海域では、最大で25万円となっているが、国立研究開発法人や大学ファンドからの支援により実現できている。競争相手であるフランスやアメリカの企業より少し安い料金設定としている。インドネシアは遠洋漁業があまりなく、日本と漁場競争がないので、サービス提供を考えているが、ネット環境が悪い。また、海外からの引き合いもあるので、今後は、ヨーロッパや南米・北米向けも検討したいと回答。)
- 九州の養殖関連事業について、取扱数量を拡大しようという計画を実現する上での課題・障害は何か。
(関連事業者から、タンパク源として魚は重要、需要は伸びてくるが、安全性を保って、安定供給を担保した上で、どんどん原価を下げ、その国の市場価格にあわせていくことが重要であり、アメリカだけをターゲットにしているのは、今の原価からすると、頭打ちになってしまう。漁業法改正で、変化はあったが、まだ、漁業権、漁協の体質、地域性など、壁はある。養殖業者はかなり協力的な面もある一方で、まだ漁協の組合員になれないままである旨回答。)
- 東北の再生に商工会議所としても力を入れている。自動判別などの取組は、これから社会実装とのことであるが、政府への支援の要望は何か。
(関係事業者から、補助金を活用しているが、1／3の自己負担は、全体が大

きいと負担感がある。また、自動判別機を導入する側にも、補助金がないと、不安感があると思うので、ここにも補助金などのメリットが必要と回答)

- 今日も、2つの取組の説明の中で、バリューチェーンの構築やプラットフォームを目指していたが、正しい方向性だと思う。他のシステムとの連携・接続も、大事なのだと思う。
- 前回は、林業の議論をしたが、スマート技術の導入を図っていくと同時に大事なことは、林業の大型化だと思う。農業も同様だと思う。水産も、漁業法改正も行われたが、同様に、大型化が大事ではないか。
- 養殖の、ぶりを1.7倍、まだいを1.8倍と数値目標をもって進めていくとのことだったが、ロードマップをもって、計画的に進めてほしい。

【議題②関係】

- 総務省の説明で、農水省とこれまでも、また、これからもさらに連携を密にやっていくとのことで、歓迎したい。
- 通信環境整備は、生産性向上のために必須のインフラであると同時に、これから就業【就漁・就農】する者の仕事・生活環境の面からも必須のもの。こうした両面で大事だということを通認識にできたと思う。
- 農林水産業の成長産業化という大方針を推進する上で、通信環境整備は、必須のテーマ。どのような政策を落とし込んでいけるか、期待している。
- 衛星コンステレーションの料金が、北米での試験結果で、初期費用で400ドル、月額99ドルというのは、安価でよい。
- 今日は、考え方の共有ができたと思う。独自の課題もあるが、共通の課題は、通信環境が課題だということは明らか。今日、この場で、結論は出せない。
- 衛星コンステレーションでは、日本の2社が協力・出資とあるが、日本で何らかのサービスをしてくれるのか。
- 衛星コンステレーションの話も、通信で営業するというだけでなく、データ利用というものに、戦略が移っているのではないか。だから、巨大プラットフォームも関心をもっているんだと思う。こうしたものとチャンネルをもって

いる日本企業が、2つ紹介があったが、本丸のプレーヤーになっていないのはこのWGの本質の議論からははなれるが、日本としては、寂しいと思う。

- 総務省と農水省の間で、農・林・水の分野ごとの課題について共有し、民間の会社の協力も得ながら、具体的に解決を図り、また、必要な制度検討を進めていただきたい。
- 来月も、農業・人材の件で、ヒアリングした上で、成長戦略会議にこのWGでのヒアリング結果を何らかの形で提案したい。
- 今日事業から提案・要望があったが、リテラシーも一つのテーマ。文科省との協力関係をどうするか。また、通信環境整備で、総務省との協力体制をどうするかもテーマ。さらに、一次産業の大規模化も重要な論点だと思う。そうしたものを提案したい。
- 通信の分野については、総務省・農水省の間で、よく詰めてほしい。両省である程度了解の上でやったほうがいいので、詰めていただきたい。
- さらに、今日の鹿児島銀行のような取組みは、重要。効果が非常に大きい。他方で、東北のプロジェクトには今は地方銀行が参画していない状態。こうした問題意識は、金融庁にも共有していただき、金融庁が考えている地方銀行の次世代ビジネスモデルの道筋に対しても、地方銀行によるファイナンスのことも、成長戦略会議の報告の中に入れられるようにしてほしい。